

平成 30 年 3 月 15 日

南の風 264

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

前号の続きです。

スポーツ界に限らず、『今』、「強権型・支配型のリーダーシップ」が再び注目されているようです。

実際、「強いリーダー」の登場を待ち望む声は非常に強くなっています。先の見えない、混迷の時代だからこそ、強いリーダーが必要なのかもしれません。

しかし、強いリーダーがいれば、すべてが解決できるというのは、短絡過ぎます。一時的に状況が劇的に変わるかもしれませんが、望ましい方向に変わるかと言えばそれは別問題です。世界的に見ても、独裁的リーダーによってもたらされた「悲劇」がどれだけあったでしょう。

一人のリーダーができることなど、たかが知れています。トップダウンですべて対応することは到底不可能です。

そこで今、注目されているのが『巻き込み型リーダーシップ』です。

バスケットボールの指導に照らして考えていきます。まず監督がスタッフ、選手、保護者会、と話し合い明確なビジョンを打ち出し、それを全員が理解し共有します。そして現場の、各コーチや保護者会、選手（キャプテン等）に裁量を与えた上で、組織全体が目指す方向からずれないように、求心力を持って統率し、マネジメントしていくリーダーシップです。リーダーシップの質は「求心力」のレベルの高さとも言えます。リーダーたる立場の人間は、如何にフォロアー（周囲の人）の力を結集させるかを考えていくべきなのです。

『スラムダンクの勝利学』という本の中で、著者の辻 秀一氏は「目指す目標をチーム全体で共有すること」と「それに向かう強い決意を全員が持つ」ことの大切さを語っています。

例：～ 船旅の目的地をハワイと決めたとします。メンバーの中に「ハワイは遠いよ。伊豆大島でいいんじゃないの」～ こういう考えを持つ人が一人でもいると、目標は達成され難くなるのです。

バスケットボールで考えてみます。年度目標を「県大会優勝・全国大会出場」定めたとします。これをチーム全体が共有することが必須条件になります。チームの中に（選手、スタッフ、保護者会）一人でも「えー、全国大会なんか無理だよ。行けるわけないよ。」と思っている人がいるとしたら、目標達成は困難なものにならざるを得ません。

繰り返します。チーム全員で『目標を共有すること』が、目標達成には不可欠なのです。

要するに、リーダーはフォロアー（スタッフ、選手、保護者会）を共鳴させ巻き込むことが必要なのです。そしてさらに大切なことは、その目標を達成した暁には、どんなことが待ち受けているかということを語ることです。自分たちが目指す目標の先にあるものを具体的に示すことです。

例えば、「次の大会でベスト4に入れば県大会が見えてくるよ。」「このチームが優勝すれば、身長が低くてもやればできることを観ている人たちに示せるよ。」「ここでがんばって勝ち上がることができれば、応援してくれている人たちに勇気を与えられるよ。」といったようなことです。

『巻き込み型のリーダーシップ』とは周りの人に、自ら参画しようとする意欲を高めるものです。